

9 研究の成果と課題

今回の研究実践では、「新たな価値を創造する力」の育成に向けて、「協働性」と「批判的思考」に焦点を当て、ごみ処理の仕組み等を学習する中で、環境の維持と改善に向けた解決策を見出そうとすることのできる課題を設定した。また、限られた時間の中であっても繰り返し資料を見返したり、自分の意見と他者との意見を比較したり、交流をスムーズに行ったりすることができるように ICT 機器を活用することを意識しながら授業を展開した。下記は、ごみを減らすための意見の一例である（図1）。

- ・(例) ごみを宇宙にとばす
- ・灰をリサイクルすればゴミを減らさなくてもいい(できたらの話だけど)
- ・生ゴミを減らす(例えばなるべく食べ残しをしないとか 普段食べない物とかも料理して食べるレシピがあるらしい)
- ・詰替などのものを選んで不要な箱を減らす
- ・プラスチックをたべる虫が本当にいる!?
- ・なるべくレジ袋などを買わない(my袋で!)
- ・ゴミをポイ捨てしない

図1 ごみを減らすためにできること

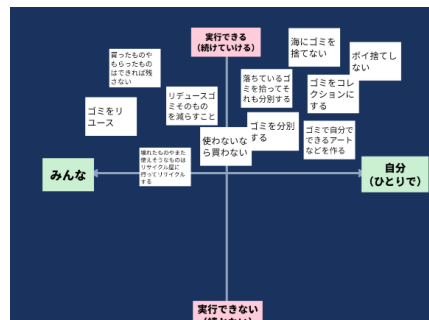


図2 ごみを減らす方法の実現グラフ

これまでの学習を振り返ったり、資料を活用したりしながら、ごみ問題を自分事として捉え、自身ができることについて考える児童の姿が見られた。また、自分の考えが実現可能かどうか、グラフに整理する活動(図2)を取り入れることで、批判的な視点を取り入れながら、より現実的で具体的なごみを減らす方法について検討することができた。ICT 機器の活用に関しては、自分の座席で他の意見を見比べるだけにとどまらず、端末を持ち歩いて友達に説明したり、共通点や相違点を見つけたりしようとする姿が見られた。自分の考えを整理するだけでなく、他者との意見を比較したり、分類したりすることによって協働的な学びが生まれた。

一方で、自分ができるごみ減量の方法を考えることにとどまってしまう、ごみ処理に関わる人々の思いや願いの部分に立ち返って考えを深める時間を設けられなかったことについては課題である。ごみ処理に関わる人だけでなく、ごみの減量を考えながら生産に関わる人の思いを提示するなど、資料の提示を工夫することで、より「批判的思考」が深まったと考えられる。

10 次年度への展望

本単元では、「批判的思考」を働かせながら議論する活動を取り入れた授業を行ったが、学習指導要領において議論する活動が示されているのは5年生からである。4年生の発達に応じて、話し合う内容を具体的に提示したり焦点化したりするなど、議論しながら思考を深める活動につながる学習内容を展開していくことが望ましいと考えられる。今回の実践をもとに、ごみ問題をはじめとする社会的な問題について、社会の一員として自覚をもった行動をとっていく姿を期待するとともに、「批判的思考」を働かせながら、自分事として考える力を高めていくことを期待したい。5年生の社会科では、自国の産業や国土の自然の学習等、環境問題について考える単元が位置付けられており、本実践とのつながりが考えられる。引き続き「批判的思考」を意識しながら環境問題を自分事として捉え、行動する姿を大切にしていきたい。

ごみ問題というテーマは、社会科に限らず他教科や日常生活との関わりを意識しやすいものだった。単元のデザインにあるように、道徳や学級活動等、児童の思考がどのように深まり喜びにつながったかについては、長期的な視点で見取っていくことが重要であると考えられる。他教科で「新たな価値を創造する力」の要素を育むとともに、「本校の目指す子供の姿」と照らし合わせながら、単元計画の見直しや教科等横断的な視点でのカリキュラム・マネジメントを図っていきたい。